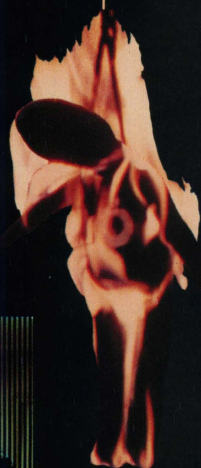


伝統の士官学校に蠢く 闇のサディスト集団!!

うづめ



THE LORDS OF
DISCIPLINE

影の私刑

リンチ



監督 フランク・ロツダム
 製作 ハーブ・ジャツフェ
 ガブリエル・カツカ
 音楽 ハワード・ブレーク
 デビッド・キース
 ロバート・ブロスキー
 G.D.スプラッドリン
 バルバラ・ブコツク
 バラマウント映画
 C.I.C.配給
 カラー作品

孤独な挑戦を始めた士官候補生。



カロライナ陸軍士官学校——祖国を守る礎となる“男”を創りあげるため、鉄の規則と苛酷な校則では他に類を見ない伝統の校風。威風堂々とそびえ立つこの士官学校の隠された“暗部”を知った、卒業間近のエリート士官は、義憤を込めて反逆ののろしをあげてゆく。

その“暗部”とは、「テン」と呼ばれる秘密グループ。この伝統の士官学校を汚すような憶病者や黒人の新入生に狙いをつけ、様々ないやがらせ、脅迫、そして実行使を加え、それでも屈しなければ、「穴倉」と呼ばれる部屋に連行し理不尽な拷問を加え、退校を承諾させるという闇のサディスト集団だった。

この「テン」の標的の犠牲者が遂に出る。肥満体の新入生ボティは、「テン」の度重なる脅迫に錯乱し、校舎の屋上から転落死した。次の標的は、黒人のピアースだ。唯一の黒人新入生である彼を「テン」は許さなかった。薄汚いニガーが栄光の士官服を身につけるなど言語道断というわけだ。

カロライナ士官学校の格式と名誉を守るためには手段を選ばない。これが、永年に渡ってこの士官学校の陰で暗躍する「テン」の狂気の掟なのだ。

「テン」を操るのは一体何者なのか？

正義感に燃え、人間としての情もあるエリート士官候補生ウィルは、この「テン」の存在を苦々しく思う大佐の命を受けて、黒人新入生ピアースを陰となって守ってゆき「テン」の実態をつきとめ、この闇のグループの根絶をはかるべく、卒業まじかに事を荒だてることはないという打算を排除し、虎にも似た行動を開始する。

義憤に燃える硬派ヒーローが、保守と封建性のはびこる巨大な士官学校の悪に敢然と挑む。旧軍隊にも似た凄絶な新兵いびりの描写の連続、格式ある士官学校の数々のセレモニー、そして意外な展開をみせるサスペンスフルなストーリーは、観る者を大いに惹きつける。

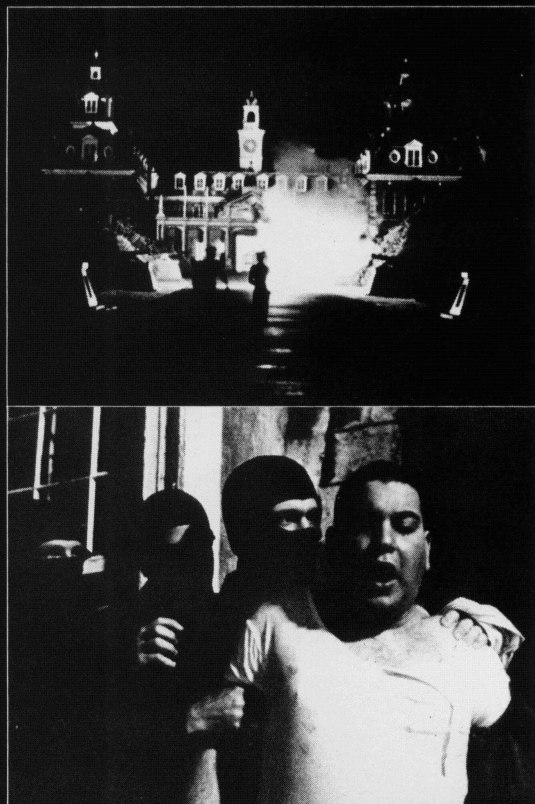
主演の士官候補生ウィルに扮するのは、「愛と青春の旅立ち」でリチャード・ギアの親友役で、自ら生命を絶つ悲劇的な最期を印象的に演じ、若手有望株筆頭に踊り出たデビッド・キース。今回もまた士官候補生役だが、なるほどピタリの適役だ。歪んだ体制に意志と闘志で立ち向かう“男の美学”を見事に体現し、併わせて“男の成長ドラマ”の主人公を堂々とこなしている。

他に「地獄の黙示録」のG・D・スブラッドリン、舞台出身のロバート・フロスキー、バーバラ・バブコック、マイケル・ピーンなどの演技派がガッチリ固めている。

原作はバット・コンロイのベストセラー小説。監督は「さらば青春の光」で注目を浴びたイギリスの鬼才フランク・ロッドム。その叩きつけるような力強い作風は今回も十分に発揮され、女っ気のほとんどない男の世界の中で展開される謎と恐怖、衝撃と興奮、ユーモアと詩情を確かな演出力で、醸し出している。

士官学校の壮厳だが不気味な雰囲気を出す撮影は「ヘビー・メタル」のブライアン・テュファアーノ。士官候補生の様々な制服に凝りまくる衣装を「ガンジー」のジョン・モロ。キリリと引き締った編集は「スーパーマン」のマイケル・エリス。そして“ムーン・リバー”“マイウェイ”などのヒット曲をちりばめ60年代前半のムードを良く伝えている音楽をハワード・ブレイクが担当している。

超一流のスタッフと気鋭のキャストで魅せる、鉄の規律の男たちの激烈な闘争ドラマの力作である。



キャスト

デビッド・キース
ロバート・フロスキー
G・D・スブラッドリン
バーバラ・バブコック

キャスト

監督 フランク・ロッドム
製作 ハーブ・ジャップフェ
ガブリエル・カツカ
音楽 ハワード・ブレイク

カラー作品
ハラマウント映画 GIC配給

影の私刑

リンチ

THE LORDS OF DISCIPLINE

エキサイティングヒーローフェスティバル第2弾ロードショー

※お得なセット券(¥3000)
特別鑑賞券(¥1200)
好評発売中！

渋谷東急 (407)
7029

新宿東急 (200)
1981

新宿東映パラス (351)
3061

丸の内東映パラス (535)
4740